

「知っているのと得をする！知っていればもう安心！」
でも、知らなければ…

まずは知ろう！

日本とラテン諸国における文化の違い



著者：宮崎博

目次

はじめに.....	3
ラテ文化の挨拶.....	4
顔の表情とゼスチャー.....	7
家族？仕事？大切なのは.....	9
時間に対する感覚.....	11
ラテンの人たちは空気を読むのか？.....	14
好きな人への告白は？.....	16
スキンシップはどこまでOKなのか？.....	18
誕生日やクリスマスの過ごし方.....	21
謙遜は悪.....	22
自分の意見をしっかりと主張する人たち.....	25
私が驚いたラテンの人たちの姿勢.....	28
日本文化の「お辞儀」、ラテンでは？.....	30
中南米の旅行で気をつけるべきこと.....	32
床に荷物を置くと...？.....	40
他人と一緒に風呂に入らない？.....	42
プレゼントへの考え方.....	43
金銭感覚の違い.....	45
マスクに対する感覚.....	47
声の大きさの違い.....	48
お酒を飲む時の違いについて.....	49
おわりに.....	51

日本とラテン諸国における文化の違い

はじめに



はじめまして。
スペイン語通訳・翻訳者宮崎博です。

現在、私は東京に住みながら、日本に来る、また日本に住んでいるスペイン語圏の外国人の方の通訳や、日本政府や日本企業とスペイン語圏の国々の架け橋となるべく翻訳やリサーチという活動をしています。

また、通訳者や翻訳者、リサーチの専門家として活動する傍ら、スペイン語の学習者向けに、「速攻&即効！スペイン語マスターメールマガジン」というメルマガを運営しています。メルマガでは、私がこれまでの学習やスペイン語通訳・翻訳・リサーチの専門家として活動する中で知り得た、スペイン語学習に役立つ勉強法について、面白おかしく配信させて頂いております。

日本とラテン諸国における文化の違い

そして今回は、通訳や翻訳、リサーチの専門家としての活動や、スペイン語圏の方達との交流、実際にラテン諸国への旅を通じて知ることが出来た、「日本とラテン諸国における文化の違い」について執筆することとなりました。スペイン語圏の外国人の人達とお付き合いをしていく上で、「知っておいた方がよいこと」「知らなければ取り返しのつかないことになること」について詳しく書かせて頂きました。

スペイン語が大好きな方、スペイン語を勉強している方、スペイン語に興味がある方、スペイン語をツールとしてラテン諸国の人たちと仕事上やプライベートのお付き合いをしていきたい方には、とても有意義な内容となります。意外な発見も多いと思いますが、知っていればラテン諸国の人達とも付き合いやすくなりますので、是非、最後まで読んで頂きたいと思います。

スペイン語通訳者・翻訳者

宮崎 博

ラテン文化の挨拶

日本人が挨拶する時、ビジネスの関係であれば、「おはようございます」、初対面の人であれば「初めまして」と言いながら頭を下げる、親しい人同士や家族なら「おはよう」、もしくは、手を振りながら「おはよう」というのが一般的でしょう。

一方、ラテンの国はどうでしょうか？国によっても違いはありますが、まず、女性同士の場合だと、軽くハグ(抱擁)しながらキスをします。キスといっても、日本人が思い浮かべるキスではなく、唇で「チュッ」と言いながらお互いの頬を軽くくっつけるのです。また男女間でもこの形です。スペインだとこれを2回、つまり両方の頬でやります。

男性同士だと、握手、親しい友人や家族であればハグ(抱擁)をします。ただ、アルゼンチンでは男性同士でも頬にキスをします。日本人男性の感覚からすると少し驚きではないでしょうか。実際のスペイン語と同じで、挨拶でも国によって違いがある、というのがスペイン語・ラテン文化の面白いところだと思います。

日本人同士では、女性同士ならまだしも、男性が女性にハグ(抱擁)しながらキスをすると、恐らくセクハラで訴えられる、ビジネスだと懲戒処分や得意先から出入り禁止処分を食らってしまうでしょう(笑) また、男性同士でも、挨拶

日本とラテン諸国における文化の違い

で握手をする日本人はいないですよ。握手をするとしても、ある程度親しい関係の人同士くらいでしょう。少なくとも、初対面の男性同士で挨拶に握手をすることはありません。握手をしてくれたとしても 渋々という感じで、相手が戸惑ってしまうかもしれません(笑) そういえば、あるラテンの国からスポーツ選手が日本に来日した時に、小学生との交流事業がありました。そこで、最後にお別れする時に女性の選手が女子児童にハグ(抱擁)をしようとしたのですが、女子児童がビックリして後ろに 一歩下がってしまった、ということもありました。ラテンの国から来た女性選手は、とても残念そうで、「なぜ？」という感じだったのを覚えています。

当然ですが、日本人にそういう挨拶の習慣はないと知らなかったのでしょうか。もしあの時、無理にハグ(抱擁)をしていたら、女子児童は泣いていたかもしれません。

最後に、このラテン挨拶について注意点をお伝えしておきましょう。例えば、大人数の集まりにあなたが合流したとしましょう。この場合は、全員に向かって「Hola (オラ)」と挨拶する、もしくは一人一人と頬にキスをして挨拶をする、男性同士なら全員と握手をする、のどちらかにしましょう。

つまり、誰か一人の人にだけ、または何人かにだけ頬にキスをする、握手をする、ということは絶対にしてはいけないということです。全員とするか、全員と「Hola (オラ)」だけにするかどちらかだということです。

日本とラテン諸国における文化の違い

あなたも、みんなに頬をくっつけてキスをしているのに、あなたにだけしてもらえなければ不愉快だし、人前で恥をかかされた気にもなるでしょう。それはラテンの人たちも同じなのです。

人によって異なる挨拶をするのは、決してよく受け止められることはないですし、周りからのあなたの評価も下げてしまうだけなのです。もし人によって異なる挨拶をすれば、もう二度とあなたとはお付き合いしてくれないでしょう。



顔の表情とジェスチャー

ラテンの人は男女関係なく、手や身体を使ってのジェスチャーを本当によく使います。日本人的な感覚で捉えると少し大袈裟に見えたり、日本人同士だと浮いてしまったりするかもしれません。ですが、ラテンの人々にとっては 会話を盛り上げたり、或いは分かりやすくするのにジェスチャーや顔の表情の変化は とても大切なのです。

先ほども言ったように、日本人同士の会話で手や顔の表情を使ってのジェスチャーを使うことは殆どありません。ですが、外国人の人たちと会話をする時は、少し大げさにジェスチャーを使ってちょうど良い感じになります。芝居をするような感覚でやってみると良いでしょう。

そして、国によって独特の意味を持つジェスチャーについて、一つだけ気をつけるべきジェスチャーについてお話ししましょう。なぜなら、特に最初のうちは、まだ言葉が通じにくいのでジェスチャーに頼る場面も多いからです。

例えば、身長の話をする時です。「あなたの息子さん、(身長は)どれくらい？」と聞かれたとしましょう。具体的な数字で答える場合もありますし、

「これくらいかな」と言って手のひらを床に向けたりすることがあると思いますが、これはラテンの人々から見ると不思議なジェスチャーなのです。何が不思議かということ、手のひらを床に向けて身長を表すというジェスチャーは、

日本とラテン諸国における文化の違い

ラテンの人達からすると、動物や物の大きさを表すジェスチャーなのです。ラテンの人達からすると、「なんで動物を扱うように言うんだろう？」と思うわけです。

これが相手の家族やお子さんに対して「これくらい？」と聞いて手のひらを床に向けるジェスチャーをしてしまうと、「動物じゃないんだけど...」と思われるかもしれません。これは時と場合によっては非常に無礼な行為になりますし、相手に不快な思いをさせてしまいますので、注意が必要です。

では、ラテンの人達はどうするのか？と言うと、手のひらを床に向けた状態から時計回りに90度動かしてみましよう。要は、手のひらを横にするのではなく、縦に向けるわけですね。これが、ラテンアメリカにおける、人の身長を表すジェスチャーなのです。

私も一度これをやってしまったことがあり、とても不思議がられたのを覚えています。

家族？仕事？大切なのは...

ラテンの人達は、とにかく家族を大切にします。何よりも一番大切なのは、家族なのです。日本だと、子供が思春期になると誕生日やクリスマスなどのお祭りごとを家族みんなと一緒に盛り上がるなんてことはなく、友人と過ごしたり恋人同士で過ごしたりすることが多いと思いますが、ラテン諸国は、そうではありません。必ず家族と一緒に過ごしてお祝いをするです。

私はサッカーが好きで若い頃はしょっちゅうサッカー雑誌を読んでいましたが、インタビューを受けた選手は全員必ずこのように答えているのです。

「自分にとって一番大切なのは家族です。サッカーはその次です。」

また、日本にいる外国人選手が、大事な試合であったとしても、婦人の出産に立ち会うために帰国する、子供が病気で心配だから帰国するなんてニュースを聞いたことがあると思いますが、こういったエピソード一つとっても、いかに彼らにとって家族が大切であるかが分かりますね。日本人の感覚だと、下手をすれば無責任と捉えられかねないことではありますが、ラテンの人たちからすれば、そんな大事な時に家族のそばに居ないことの方が理解できないのです。

勿論、日本人にとっても家族は大切です。どうでもいいわけがありません。ただ、優先順位が違うのです。日本人の優先順位は、第一に仕事で家族はその次なのです。家族より仕事を優先する事例は今も昔も殆ど変わりません。

日本とラテン諸国における文化の違い

日本だと、たとえ休暇であっても家族と過ごしている時に、会社から「緊急事態です。あなたにしか出来ないので、すぐに来てください」「お客様がどうしても今あなたにお会いしたいと言っているのです」と連絡が来れば、恐らくその時点で休暇を切り上げて会社に出社するでしょう。それも、家族に文句を言われるのを我慢しながら...なぜなら、一番大切なのは家族ではなく、仕事、だからです。

しかし海外はそうではありません。家族と休暇を過ごしている時に、途中で打ち切って仕事に行くなんてことはあり得ません。そもそもお客様だって、

「今日は担当者が休みだから」ということで納得しますし、会社も休暇中に連絡してくるなんてことは余程の例外を除いてありません。むしろ、家族と充実した休暇を過ごし、エネルギーを充填させて、新たな気持ちで仕事に向かうわけです。

日本人にとっては「仕事が全て、家族はその次、ラテンの人たちにとっては「一番大事なのは家族、仕事はその次」なのです。この点は日本人とラテンの人々の間にある、大きな違いとなりますので、覚えておきましょう。



時間に対する感覚

これはよく言われていることなのであなたも一度くらいは聞いたことがあると思いますが、日本人は世界一時間に正確な民族です。人との待ち合わせの際には10分前、遅くとも5分前には待ち合わせ場所に行くか、遅れるにしても必ず事前に連絡をしますよね。

でも、ラテンの人は遅れてくるなんてことは当たり前です。遅れて来たとしても、日本人のように遅れたことに対して謝る人は少ないのです。ラテンの国では、会議やイベントさえ時間通りに始まらないなんてことはザラにあります。

これは公共交通機関でも同じことが言えます。日本は、電車であろうとバスであろうと飛行機であろうと、時刻表通りに運行していますよね。1分でも遅れようものなら、運転手さん、もしくは車内アナウンスで謝罪の言葉がありますよね。でもラテンの国では、時刻表すらない所もありますし、渋滞が多い地域では、遅れるなんて当たり前なのです。

日本人とラテンの人々の時間に対する感覚の違いがわかるエピソードはいくつかあります。例えば、先述した公共交通機関ですが、時間通り運行できなければ会社も利用客に対して申し訳ない気持ちになるし、会社として恥だと受け止めるでしょう。そして遅延に対しては怒りを爆発させる人も珍しくはありません。

日本とラテン諸国における文化の違い

ですが、ラテンの人たちは、公共交通機関のダイヤの乱れなんて当たり前なので、遅れたことに対して怒る人はまずいません。大事な仕事や会議に遅れるわけにはいかない私たち日本人の感覚からすれば、これはもう狂っている としか言いようがありません(^ ^)

ラテンの国ではありませんが、ポルトガルに旅行に行った時、ポルト行きのフライトの出発時間が2時間遅れたのですが、怒っている人なんて誰もいませんでした。みんな、何事もなかったかのような感じで、それも生活の一部となっていました。航空会社のカウンターの人に、「日本だと絶対誰かが怒り出してよ」と言うと、「それも(遅れることも)人生の一部だよ」と笑顔で返されました(^ ^)

また、私も中南米の国を旅したことがあります。フライトが遅れるなんて当たり前で、それに対して怒ったり困ったりしている人、航空会社に噛み付いている人もいませんでした。そんな中で旅をしていると、遅延なんてもう 当たり前のことだと感じ、気にもならなくなりました。

そういえば会社勤めをしていた頃、電車のダイヤが乱れて出勤時間に間に合わなかった人は駅で遅延証明書を発行してもらおうという社内規定がありましたが、こんなところにも日本人の時間厳守の考えが表れていますね。

もしラテンの国々で鉄道会社や航空会社に遅延証明書を要求したら、異端児だと思われてしまうでしょう(^ ^) 日本人にとってはショックではありますが、こういう時間感覚の違いは知っておくと良いですね。

日本とラテン諸国における文化の違い

旅行者ならまだしも、何も知らないビジネスマンがラテンの国々に出張に行くと、ほぼ間違いなくカルチャーショックを受けるでしょう。日本に来る多くの外国人が、日本では何でも時間通りに動いていることに感動します。それだけ私たち日本人は過ごしやすい文化の中で生きているのかもしれませんが、でもこれはお互いの文化の違いであり、お互いの国の人にとっては当たり前の日常として育ってきていますので、お互いに尊重し合いたいものですね。



ラテンの人たちは空気を読めるのか？

日本文化の代表的な特徴の一つが、何と言っても「空気を読む」ということではないでしょうか。日本では「空気を読む」ことが出来ない人は、社会の中で生きていくのは難しいと言っても過言ではありません。これはある意味では日本人の繊細さを物語っているかも知れません。

ですが、ラテンの人たちは「100%空気を読めない」と断言できます。

とはいえ、ラテンの人たちも馬鹿ではありません。その場その時の状況や雰囲気は察することが出来るでしょう。では、この「空気を読む」ということにおいて、日本人とラテンの人たちとの間にはどのような違いがあるのでしょうか？

それは、「暗黙の了解」という言葉がピッタリではないかと思います。

つまり、「言わなくても分かるだろう」ということです。日本人同士の関係の中では、口に出して言わなくても理解し合うことが出来ます。むしろ、それが出来なければ日本社会では生きていけません。「何も言わないけど、こういうことなんだ」と。反対に、「それって、〇〇ってことですか？」なんて聞いてしまったら、「それは言うな！」「分からない奴だな！」となってしまうでしょう。

でも、ラテンの人たちは違います。言葉にしたことしか理解しないのです。

そもそも、「空気を読む」なんて言葉自体が存在しないのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

日本人は特に言いにくいことに対しては言葉にせず雰囲気醸し出すことで気持ちを伝えようとしたり、曖昧な言い方をして肝心な部分は口に出さずに相手に悟らせる、というコミュニケーションが多いですが、ラテンの人たちと付き合っていく上では、これは障害となります。

先ほども言ったように、ラテンの人たちは言葉にしたことしか理解しないのです。つまり、**言葉にしなければ何も伝わらない**のです。だから、ラテンの人たちに意図や思いを伝えたいのであれば、必ず言葉にしなければならないのです。それだけ言葉というのは大切なのです。

例えば、あなたが上司や同僚に仕事を頼まれたとしましょう。あなたは心の中では「これ以上無理だよ...」と思いつつも「良いですよ」と返事をします。でも、あなたの表情や雰囲気を察した相手は、「良いと言ってるけど、本当は無理なんだ」と理解し、その仕事を他の人に頼むか自分でやるでしょう。空気を読んでくれるわけです。

でも、ラテンの人たちに「良いですよ」と返事したら、本当に仕事を頼んできます。こうなると、後であなたが困っても遅いわけです。「良いって言ったじゃないか」「それなら、なぜ断らないんだ？」となってしまうわけです。暗黙の了解も空気を読むなんてことも、ラテンの人たちにはあり得ないことなのです。特にビジネスでラテンの人たちと交流がある場合は、この違いには注意が必要です。どんなに言いにくいことでも、言葉にしなければ絶対に伝わらない、と肝に命じましょう。

好きな人への告白は？

先ほどの「空気を読む」という話の続きになりますが、恋愛の違いについてもお話ししましょう。特に、思いを寄せる相手への伝え方について、です。

ラテンの人たちの相手への**愛情表現はストレート**です。日本人は、思春期の年代の若者はともかく、大人は「好きです」「愛しています」なんて言葉は言わない人の方が多いのではないのでしょうか？最近は特に、そんな言葉は要らないと考える人の方が多いように感じます。

ここでも、日本人は「好き」「愛しています」とハッキリとは言わず、回りくど〜い言い方で遠回しに伝えようとするのです。それを相手が「察してくれる」ということですね。愛情をハッキリと口に出して言うことは、子供じみていると考える人も多いでしょう。

一方ラテンの人たちはどうか、というと、もうお察しの通り、本当にハッキリと口に出します。Te amo mucho. Yo te quiero. Quiero salir contigo. という感じで、本当にシンプルでストレートです。日本人的な愛情表現だと、彼らからすると「何が言いたいのか？」となってしまうかも知れません(^ ^)

日本人は肝心な部分を言うまでに長いストーリーがありますが、ラテンの人たちはそうではなく「**結論が先**」なのです。まさにシンプルでストレート、ハッキリしていて分かりやすい、ということなのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

とにかくラテンの人たちは、「いかに自分を良く見せるか」という文化なのです。好きな相手にはとにかく積極的に自分のことをアピールするのです。日本では「草食系」「肉食系」なんて言葉が流行りましたが、ラテン男子は間違いなく、「肉食系」です。

そういえば、これは大した情報ではありませんが、ラテンの国では、細身の男性よりもガッチリした男性の方が女性にモテるのです。ガッチリしている方が、健康そうに見えるのですね。

これも日本とは少し違うのですが、日本人の場合は、女性は男性の前では、性的な話題、いわゆる「下ネタ」は言わないですよね。ところが、ラテンの場合は、女性も「下ネタ」を言うのです。言ったからといって「はしたない」なんて言われません。



スキンシップはどこまでOKなのか？

男女間で挨拶をする時はハグ(抱擁)をして右の頬をくっつけて「チュッ」と言うのが一般的だと説明しましたが(スペインでは右と左で1回ずつ)、では、スキンシップはどこまで許されるのでしょうか？

ラテンの国では異性の友達に頬にキスをする人もいますが、これはラテンの人でも個人差があり、人によっては不快に感じる人もいますので注意した方が良いでしょう。

例えば、仲の良い女性に対し、その女性の恋人の前で頬にキスしたりするのは、やめた方が良いでしょう。気にしない人は気にしないし、気にする人はすごく気にするのです。これは、日本人女性がラテンの男性に接する時も同じです。

写真を撮る時に肩を組んだりするくらいは大丈夫ですが、やはり異性の身体に触れるという行為は、相手がラテンの人であろうと日本人であろうと控えた方が良いでしょう。相手がラテンの人だからといって、何をしても許されるというわけではないのです。相手がラテン美女だからといって抱きついたりするなんて問題外です(^^) 恐らく、思いっきりビンタを喰らうか、セクハラで訴えられてしまうでしょう。

日本とラテン諸国における文化の違い

逆に、日本人女性相手なら多少のスキンシップは許されると考える外国人は結構多いです。ただ、ラテンの女性も日本人女性も、相手がどこの国の男性であろうと、嫌なものは嫌なのです。特に日本人男性はスキンシップについて勘違いしてしまう人が多いですが、女性に対するスキンシップは常識の範囲内で考えましょう。

このパートでは、どちらかというとなら日本人男性向けのお話になっていますが、女性へも一つ、大事なことをお話ししましょう。それは、ラテン男性の恋愛観について、です。

ラテンの人は自分の気持ちに正直な人たちです。女性を見て可愛いと思えば面と向かってストレートに「可愛いね」と言いますし、積極的に誘って来たりします。そういえば、南米から日本に、とある団体が国際交流の一環で来日したのですが、ある日本人女性を気に入ったようで、「可愛いね」「デートしよう」としきりに言ってました。周りの男性は「また口説いてるぞ」なんて言って面白がってましたが...(^^) その時は通訳の方が機転を利かして「可愛いね」しか訳しませんでした。何度言っても通訳さんが訳してくれないから、通訳さんの意図を察知して諦めてましたね(^^)

あと、日本人女性がよく悩むのが、日本に来たラテンの男性から誘われたりした時です。ここで断って良いかどうか悩む日本人女性が意外と多いのですが、嫌なら断れば良いし一緒に行きたければ行けば良いのです。ラテンの人たちは自分の気持ちに正直な人たちです。だから何でもストレートに表現するのです。でも、断られたからといってその後絡みにくくなるわけではありません。

日本とラテン諸国における文化の違い

元々は仕事上の付き合いがあるから、ということで断って良いか悩む女性が多いのですが、ラテンの男性は断られても気にしたりしません。

また、ラテンの男性が告白してきた時も日本人女性は悩むわけです。結論から言いましょう。誤解を恐れずに言わせて頂きますと、ラテンの男性は帰国した後も恋愛関係を続けようなんて思っていないのです。ただ自分の気持ちに素直に「可愛い」「好きだ」と思っていて、それを口に出す、ということなのです。

日本人女性は、「遠距離恋愛になるから」ということで真剣に悩んだりするわけですが、甘〜い(^ ^) 帰国すれば、家族や母国の恋人の所に戻って行くのです。ただ、そこは大人の関係なので、誘われてついて行きたければついて行けば良いし、興味がなければ断れば良いのです。そこは気を使う必要はありません。(甘いなんて失礼なことってごめんなさい...^ ^)

そう言えば、知り合いの日本人女性が南米に留学した時に現地で恋人ができたようですが、帰国する時に聞いたら、「日本に帰国したらもう会えないので、恋人としての関係はそこで終わり」と言っていました。知り合いの南米の女性に聞いても、ラテンの人にとって遠距離恋愛は一般的ではないと言っていました。離れ離れ、というのがあり得ないのですね。

誕生日やクリスマスの過ごし方

ラテンの人たちが家族を大切にする、という文化は、誕生日の過ごし方からも見て取ることが出来ます。ラテンの人々は、誕生日は必ず**家族**で過ごします。そして**家族全員**でお祝いをするのです。これは、何歳になっても関係なく、家族の誰かが誕生日の日は必ず**家族**みんなで過ごすのです。小さな子供であろうとお爺ちゃんお婆ちゃんであろうと関係ありません。

日本だと、子供が小さい間は家族でお祝いをしたりしますが、大きくなると盛大にしなくなったり、恋人同士で過ごしたりしますよね。日本だと、子供が小さい間、ということが多いですが、**ラテンの人はお祭り事やお祝い事は必ず家族で過ごす**のです。ただ、恋人や友人の誕生日に、その家族から招待されたりすることはあるでしょう。

話を戻しますが、こういう文化の違いは、クリスマスの過ごし方にも現れています。日本はどちらかというとイベント的要素が強く、12月24日や25日に友達や恋人と会ったり食事したりという過ごし方をしますが、ラテンの国ではイベント的要素もありますが、必ず**家族**で過ごすのです。そしてクリスマスと年末年始が連続してくるので、国によって若干のズレはありますが、12月21日頃から1月5日・6日頃までがクリスマス&新年休暇となります。この期間に遠方に住んでいて普段会えない家族と会い、一緒に過ごすのです。

謙遜は悪

日本人にとって**謙遜は美德**ですよね。例えば、スペイン語をベラベラに話せるとしましょう。でも、スペイン語ベラベラの日本人の殆どは、スペイン語を話せますか？と聞かれれば、「少しだけ…」という感じの答え方をしますよね。「ベラベラです！」と胸を張って答える人は少ないですよね。「スペイン語ベラベラじゃないですか！」と褒められても、「いえいえ、全然大したことないですよ」と答えますよね。

むしろ、「そうなんですよ、私、スペイン語ベラベラなんです」なんて答える人は殆どいません。要は、自分を大きく見せない、自分の実力や功績を見せないようにする、ということです。そして、これが日本では美德とされているわけです。

これが、ラテンの人たちはどうでしょう？少し大袈裟ですが、日本人とは正反対、と思っても行き過ぎではありません(笑) 反対に、ラテンの人たちに「日本語話せますか？」と聞けば、挨拶程度の日本語しか言えなかったとしても、堂々と胸を張って「話せます！」と答えるのです(^_^) では、日本語ベラベラのラテンの人を褒めるとどう答えるのか？というと、「ありがとう。日本語得意なんだ」「ありがとう、すごく勉強したんだ」という風に答えます。日本人のように否定して自分を低く言ったりしないわけです。

日本とラテン諸国における文化の違い

勿論、日本人ほどでないにせよ、ラテンの人たちだって謙遜します。では、この「謙遜」という面において、日本人とラテンの人たちとの間にある違いは何なのでしょう？

ズバリ言いましょう。日本人は「**自己評価**」がかなり低いのです。例えば、会社での仕事や学校での役割についての自己評価で、下は1点から上は5点までの査定をすると、5点の働きができていても「3点」とつけたりするでしょう。それが、日本人の美德なわけです。5点で提出したら、上司や先生「自惚れるな！」「気を抜くんじやない！」と怒られるのがオチです。

でも、これだとラテンの人たちからすると、**自信のなさ**のように受け止められてしまいます。出来ていると思えば、**堂々と主張**するのです。それを否定されたら、必ず理由を求めてきます。日本人のように、出来ているのに、「いや、まだまだ全然ダメです」なんて自己評価はしないのです。

ラテンの人たちは、とにかく自分のことが大好きです。日本人のように、「私なんて全然…」なんて自己評価はまずしないでしょう。むしろ、いかに**自分を良く見せよう**か、という文化なのです。ある意味、みんなナルシストなわけですね。

これは文化の違いなので、どちらが良い悪いという話ではありませんが、ここはラテン文化を尊重してみても良いのではないかと、個人的には思います。この「過度な謙遜」によって日本人が自分で自分の可能性を閉じてしまっているように思えてならないのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

例えば、会社内で新しいプロジェクトの仕事の公募があっても、その仕事をこなせる力が十分に備わっているのに、「まだ自分には早い」「もっと実力をつけて…」という謙遜によって、貴重な機会を逃してしまっているかも知れません。ラテンの人たちなら、我先にと名乗り出るでしょう。

「まだ早い」ではなく、「やるから実力もつく」というのがラテンの人たちの考え方です。つまり、日本人のように失敗を恐れてはいないのです。いや、失敗でさえも、ポジティブな方向に捉えるのです。「謙遜」を封印し、思い切ってアピールしたことで成長する機会を得ることが出来た、というわけですね。



自分の意見をしっかり主張する人たち

日本人はあらゆる分野、業界で「言いたいことがあっても言えない」と言われてきましたが、それは現在も変わることはありません。これによる弊害が色んな所で出ているわけですが、これは誰が悪いわけでもありません。子供の頃から日本人はそのように教育されてきているので、言いたいことがあっても言えない、というのは子供の頃からの教育の結果なのです。

たまに「言いたいことはしっかり主張すべき」と立派なことを言う人がいますが、そういう人も実は主張できていないものです。相手が会社の上司や先輩であれば、なおさらです。

では、ラテンの人たちはどうなのでしょう？というと、子供の頃から親や学校から、自分の意見をしっかり主張するようにと教育されているのです。たとえば自分の意見だけがみんなと違っていても、堂々と主張するのです。時には議論や言い合いになることもあるでしょう。でも、日本人のようにそのことを後々まで引きずったりはしないわけです。

これが日本だと「周りと違う意見を言うと馬鹿だと思われるんじゃないか」

「こんなこと言って怒られたらどうしよう？黙っておこう」と考える人が殆どでしょう。親からも学校からも、周りと合わせるように教育されているのです。でも、これはラテンの人たちの感覚からすると、おかしいわけです。自分の意見を持ってない人、つまり、馬鹿だ、と思われてしまうのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

周りとは違う意見だからといって躊躇したりしないのですね。また、周りの人たちも、一人だけ意見が違うからといって、それをおかしいと思ったり馬鹿にしたりしないわけです。先ほども言いましたが、むしろ、**黙っている方が おかしい=馬鹿な人**、となってしまうのですね。極端に言えば、思ったことを言う人たちなのです。

恋愛の話でも出てきましたが、その意見もストレートに言うのです。日本人のように言いにくいことをオブラートに包むような、遠回しに言うようなことはしないのです。一方、ラテンの人たちはストレート、明瞭簡潔で相手に分かりやすいのです。日本人的な感覚で、日本お決まりの曖昧な表現では、間違いなくラテンの人たちには何も伝わらないでしょう。

また、日本では、こんなことも多いのではないのでしょうか？その場で相手に言わずに、後で相手がいなくて本音を言う、という...そして、相手がいなくて言った本音が、人づてに本人に伝わってしまう。そして、それを人づてに聞いた本人は、「それなら、その時にいってくれば良いのに...」と不快な思いをする...あなたも、会社や学校でこんなシーンを見たことがあるのではないのでしょうか？もしかして、あなた自身がその当事者だったかも知れません。

こんな所にも、言いたいことがあっても言えない日本独特の文化が現れていますね。ラテン文化はというと、お察しの通り、正反対なわけです。思ったことを言う人たち、ですから、その場で言うのです。人を使って間接的に伝えるなんてことはしません。直接、自分の言葉で伝えるのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

もう一つ、例をあげてみましょう。学校で、ホームルームの時間だったとしましょう。ここでも、ラテンの子供達は我先にと口々に自分の意見を主張するのです。黙っていても、先生が「～くん、君はどう思う？」なんて言ってはくれません。自分の意見を言わず黙っていれば、置き去りにされてしまうだけなのです。一度自分の意見を主張したら、あとは別の人に譲る、なんてことはなく、何度でも自分の意見を主張するのです。これが、ラテンの人たちのスタンダードなのです。

日本なら、親や先生が、「～くん、今度は他のお友達に譲ってあげようね」「自分ばかり言わず、他の子にも言わせてあげないとダメだよ」と諭されるだろうし、「何だアイツ、自分ばかり言いやがって...」と思われるかもしれません。でも、そんなことを言ったところで、ラテン文化では置いていかれるだけなのです。

自分の意見を言えない人は、ラテン文化では生きていけないと言っても過言ではありません。相手が誰であろうと、自分の意見を主張するのです。上司や先輩であろうと主張するのです。それは決して刃向かう、というわけではありません。自分の意見を主張しているに過ぎないのです。

特にビジネスでラテンの人たちと関わることがあるというなら、この違いは絶対に抑えておかなければいけません。自分の意見が言えないと、ラテンの人たちとは渡り合っていくことは出来ません。圧倒されないようにしたいものです。黙っていても、日本の先生のように、話を振ってくれたりはしないのです。この点は、肝に命じておきましょう。

私が驚いたラテンの人たちの姿勢

あるラテンの国のスポーツの団体が日本で合宿をするということで、通訳として帯同していましたが、そこでも、日本で育った私には信じられないことがありました。

コーチが練習の開始前にメンバー全員に話をしていたのですが、選手たちは背筋を伸ばして姿勢を正して話を聞くのかと思いきや、床にダラ〜ンと座り込んだり胡座をかいたり、手を床について少しもたれるような姿勢で話を聞いているのです。監督やコーチを神聖化している日本では考えられないことですよ。でも、ラテンの選手たちは決して話を聞いていないわけではないのです。そんな姿勢でも、コーチの話はしっかりと聞いているのです。彼らにとっては、それは「ダラけている」「タルんでいる」のではなく、リラックスしているわけですね。

日本だったら間違いなく、「ちゃんと背筋を伸ばせ！」「何だその態度は！」と大目玉を喰らうでしょう。日本だと、コーチが話している場合は、場所が外なら、普通は直立不動か三角座りですよ。

ですが、ラテンの選手たちも、いざ練習が始まると真剣そのものです。時に笑顔が見えることもありますが、気を抜いている選手なんて一人もいません。抜くところ、リラックスするところと気合いを入れるところがハッキリしているのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

また、日本の選手の練習の見学に帯同した時も驚かされました。日本人的感覚からすれば、見学させてもらっているにも関わらず、壁にもたれて座ったり胡座をかいて座ったりしているのです。勿論、ラテンの選手たちには悪気はなく、自分たちの文化では普通のことだったのですが、さすがにこの時は、日本チームのコーチから注意されました。そんな文化の違いを知らない日本人選手からすれば、自分たちが練習している横で、そのような態度で見学されては気分が悪いでしょう。

ただ、ラテンの人たちにただ注意するだけだと、¿Por que? 「なんで？」と聞いてきます。自分たちの過ごしている文化の中では普通のことだから当然と言えば当然なのです。でも、そこでしっかり説明してあげれば、彼らだって納得して日本文化を尊重するのです。この時も、「日本では無礼に当たるんですよ」と説明するとすぐに納得してくれました。

ちなみに、この文化の違いを知っていた私は、ポリビアとペルーを旅行した時に、空港の搭乗待ちの時はしっかりと廊下に地べたに座らせていただきました(笑) 日本だと行儀が悪いと言われそうですが、この時は座ることが出来て助かりました(^ ^)

そうそう。ポリビアのサンタクルスからマドリードに行くフライトに搭乗する前に手荷物検査があったのですが、警察犬による検査で、あれにはまいりましたね。自分のカバンの前で吠えられてらどうしよう...とビビっていましたが、怪しいものは何も持っていなかったんで、当然犬に吠えられることもなく、無事に搭乗できました(^ ^)

日本文化の「お辞儀」、ラテンでは？

ラテンの人からすると、日本人のお辞儀、いわゆる挨拶の時に頭を下げる行為がとても滑稽に映っているのです。日本では挨拶の基本中の基本であり、特に初対面の方への挨拶の際には絶対外すことの出来ない行為です。また、謝罪の意を示す時にも頭を下げるという行為はとても大事なことですよね。いわば、これが出来ない人は**教養のない人**ということになってしまいます。

そんな大事な行為が、なぜ海外の人からは滑稽に映るのでしょうか？単刀直入に言いますと、「頭を下げる」という行為は、海外では**負けを認める、自分の過ちを認める**、ということを意味するのです。よく、初めて日本に来た外国人が、日本人同士でお辞儀や会釈をしているのを見て何やら面白がっていることがよくありますが、頭を下げる=負け、という文化で育っている人たちからすれば、「なんだ、あれ？」と不思議に感じるわけですね。

私もコロンビアに旅行に行った時、ホテルに戻る時にタクシーに乗りたくなかったので路線バスに乗って近くまで帰ることにしたのですが、海外のバスは時刻表とかを見てもよく分からないってことがありますよね。その時に、バス停で待っていた親子に助けてもらったのですが、バスを降りて親子を見送る時に帽子を取ってお辞儀したら、本当に面白がっていたのがガラス越しにも分かりました(^ ^)

日本とラテン諸国における文化の違い

サッカーを観る人ならご存知だと思いますが、以前、イタリアリーグで長友選手と元アルゼンチン代表のサネッティ選手がゴールを決めた後に、二人でお辞儀パフォーマンスをしていたことが話題になりましたが、海外の選手が日本人のお辞儀を不思議に思っていることの典型的な例だったと言えるでしょう。勿論、あのパフォーマンスにはサネッティ選手の日本文化への敬意が込められていたことは言うまでもありません。



中南米の旅行で気をつけるべきこと

先ほど、コロンビアを旅行した時にタクシーを使いたくなかったというお話をしましたが、ここで、中南米を旅行する際に、とても重要なことをお話していきましょう。

■タクシーについて■

なぜ、私はタクシーに乗りたくなかったのでしょうか？そうです。ポラれるのが嫌だったからなのです(笑) 日本人は特に観光客マルだしなので、そういう対象になりやすいのです。中南米では **Uber (ウーベル)** が浸透していますから、Uber を利用できる国では、Uber を利用すると良いです。スマホにアプリをインストールすれば、行き先を登録すると後は事前に課金されるので現金を払う必要はないですし、どの運転手、車で来るか事前に分かっているので安全です。流しのタクシーはあまりお勧めしません。私は2回ポラれたので(^ ^) 但し、空港にはUberは行けないと思うので、ホテルから空港、あるいは空港からホテルへは、ホテルの送迎サービスを利用することをお勧めします。

■トイレについて■

次のお話ですが、中南米では、**トイレに紙を流してはいけません**。これはなぜかという、水圧が低いので紙を流すと詰まってしまうのです。高級ホテルなら大丈夫かもしれませんが、中南米を旅行するなら、トイレに紙は流せない、と肝に命じておきましょう。

日本とラテン諸国における文化の違い

では紙はどうするのか？というと、ホテルでもレストランでも、トイレには必ず蓋のついたゴミ箱が用意されているので、トイレに流さずゴミ箱に捨てます。

これ、日本人の心理からすると嫌だと思うのですが、これは絶対に守らなければいけません。ホテルなら、「紙を流さないでゴミ箱に捨ててください」とスペイン語と英語で表示されていますが、日本人はスペイン語も英語も読めない人が多いので、いつもの習慣で紙をトイレに流してしまうのです。

でも、これ、流してしまうと本当に迷惑がかかるので、特に気をつけて頂きたいと思います。私も、表示を読んだばかりなのにトイレに流しそうになったこともあります。また、ホテルやレストランだけでなく、一般家庭のトイレでも紙は流せませんので、ホームステイをされる方は注意してください。

とはいえ、日本のトイレのように勢いよく水は流れないので、一度利用すれば、トイレには紙を流せないということが分かると思います。

■チップについて■

私の個人的な意見としては、ホテルやレストランでのチップは払いたくなくても払う必要はないと思います。ただ、安いホテルだと、部屋にチップを置いて出掛けないとあまり綺麗に掃除をしてくれなかったりすることはあります。私もペルーで比較のお手頃な値段のホテルに泊まった時に、帰ってくると机の上が散らかったままでしたが、次の日にチップを置いて出掛けると、物の見事に綺麗にしてくれていました(^ ^)

日本とラテン諸国における文化の違い

まあ、高級ホテルであれば、このようなことはないと思いますが...(笑)

では、レストランではどうか？というところ、これはウェイターによります。お釣りをきっちり返してくる人もいれば、返してくれない人もいます。私たち日本人の感覚からすれば、「早くお釣り返してくれよ！」という感じですね。ただ、お釣りを返さないでチップとして受け取ろうとする人は、何だかヨソヨソしかたりするので、すぐに分かるでしょう。ここでは、お釣りを返して欲しければ、しっかりと主張しましょう。諦めてチップとして渡す必要はありません。

時と場合によりますが、チップをあげたいならあげればいいし、あげたくなければあげなくていいのです。そういえばペルーのクスコの町で乗馬を体験しましたが、その時はさすがにガイドさんにはチップを渡しました(^^)

■無料なんて存在しない！■

中南米を旅行していると、とにかく地元の人に絡まれます。地元の人といっても、物を売るために歩いている人たちですが。これもペルーのクスコの町でのことです。ベンチに座っていると、靴磨きで生計を立てているおじさんが私の所に寄ってきて、Hola.と気さくに声を掛けながら私の靴を磨き始めました。私は断ったのですが、無料サービスだということで、世間話をしながら磨いてもらいましたが、終わったあとには案の定、お金を払う羽目になりました。まあ、ピカピカになったので良かったと思いますが...(^^)

日本とラテン諸国における文化の違い

これもペルーのクスコの町でしたが、ある観光名所でインディヘナの格好をした女性がアルパカを連れて、通りすがりの観光客に「写真はいかがですか(無料で)?」と声を掛けていました。殆どの方は無視していましたが、私はアルパカとインディヘナの格好に魅せられて、ついつい写真を撮ってもらったのです。

当然、あとでチップを払わされることになりましたが、女性が3人いたのですが、お財布の事情もあって3人に同じ金額をあげることが出来なかったのです。最後にたっぷり嫌味を言われてしまいました(笑)

ここで話は逸れますが、この例からも分かる通り、要らない時は要らないと明確に言葉で主張しないと、このような目に遭ってしまうのですね。私の場合は楽しませてもらったから納得していますが(半分は強がりです)(^^) 欲しくない時はハッキリと断りましょう。

■高山病への対応は? ■

日本人にも人気の観光地、クスコやマチュピチュ、またポリビアは標高が**3000—4000m**と高く、高山病に掛かる可能性があります。私も、ペルーのリマからクスコに移動した時に、**2**日後に高熱と頭痛でダウンしました。ホテルから送迎のタクシーの運転手からは、空港の薬局で高山病の薬を買い、離陸**1**時間前に飲めば良いと教えられましたが、私の場合はあまり効果がなかったようでした。頭痛と高熱(**38**度位)が典型的な高山病の症状だそうです。この後ポリビアに行きましたが、クスコからラパスへ行く間に1週間ほど空白がありました。クスコで体が慣れていたので、ポリビアでは高山病には掛かりませんでした。

日本とラテン諸国における文化の違い

ちなみに南米の高地なら、だいたいどこのホテルでも「コカ」という葉っぱを入れたお茶を飲むことができます。高山病に効果があると言われているようで、朝と夜に飲むと良いそうです。

この高山病、本当に掛かる人もいれば掛からない人もいたので何とも言えないですが、高地での食事は注意した方が良いでしょう。私もクスコに着いてから何となく気怠さを感じてはいましたが、初端からガッツリ肉系の食べ物を食べてビールを飲んでいました。これは典型的な悪い見本で、最初はサラダやパスタ、ソフトドリンクなど、消化の良いものから食べて徐々に慣らしていくと良いと言われています。

クスコではどうしたのか？というところ、フロントに相談すると、お勧めの薬（確か高山病の薬と熱や頭痛に効く薬）を教えてくれたので、近くの薬局で体温計と一緒に買いました。それでかなり楽になりました。空港で買った薬を見せると、「それは高いだけであまり効かないよ」と言われちゃいましたが...(^^) また、日本の体温計と比べると、低めに計測されていたような...



■トイレは有料なのです■

これは中南米だけでなく、ヨーロッパも同じなのでイメージ出来る人も多いと思いますが、公衆トイレは優良です。入り口には係りの人がいて、日本円でいえば5円とか10円で利用することが出来ます。また、日本だと買い物をしなくてもコンビニなどで利用させてもらえますが、海外では絶対にあり得ません。お金を払えば利用させてくれるレストランなどはあります。

これは海外旅行をされる方には釈迦に説法だと思いますが、どの国もそうですが、日本ほど外でトイレを見つけやすい国はないと思っておいた方が良いでしょう。

レストランでも、日本なら、注文をする前にお手洗いに行くこともあると思いますが、海外では、注文をしてからでなければ使わせてくれません。この点は中南米よりヨーロッパの方が厳しいかもしれませんね。

■野良犬が多い？■

これは、旅行時の注意事項というようなことではないかもしれませんが...中南米を歩いていると、頻繁に首輪のしていない犬にすれ違う、いや、遭遇します。でも、恐らくあれは野良犬ではないのだと思います。どこかに飼われている犬なのでしょう。吠え掛かってくることはなかったですね。まあ、これは奈良公園の野生のシカと同じで観光客が多くて人間に慣れているだけかもしれませんが(笑) ちなみに、猫の場合は、恐らく野良猫でしょう。どちらにしても、あまりむやみに撫でたりしない方が無難です。可愛くても我慢しましょう。

■ 中南米は危険なのか？ ■

おそらく、殆どの人が治安面を気にされるのではないのでしょうか？ただ、まず最初に肝に命じておかなければならないことは、**日本ほど安全で暮らしやすい国はない**、ということです。「ここは日本ではない」ということを常に意識しておきましょう。

では、肝心の治安ですが、これは世界中のどの国を旅行するにしても、場所によります。観光客が多いエリアなら、細心の注意は必要ですが、危険に感じることはないでしょう。一番いけないのは、地元の人でも行かないような場所に行くことです。それと、地元の人でも夜の一人歩きは避けるような場所では、夜は一人で徘徊しないことです。わざわざ人気の少ないところに足を踏み入れて肝試しをする必要はない、ということです。

また、**カバンは絶対に前**です。背中に背負っていると、間違いなく知らない間に何か盗まれていると考えた方が良いでしょう。2年ほど前にコロンビア人の友人が日本に旅行に来たのですが、日本人がカバンを背中に背負っているのを見て凄く驚いていました。また、スマホを見ながら歩いたり、若い男性がズボンの後ろのポケットに財布を入れて歩いたりしていますが、中南米で同じことをすると、間違いなく盗まれます。酷いかもしれませんが、それは逆に「どうぞ取って下さい」と言っているようなものなのです。

そして、取られたら、抵抗したり追いかけたりしないことです。取り返せればそれに越したことはありませんが、相手が何を持っているか分かりません。取られたら諦める、というのも身を守る手段の一つなのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

これ、運動能力や腕っ節に自信がある人ほど危険なのです。そういう人の方が、却って危険な目に遭われることが多いので注意が必要です。

これも私の知り合いの女性に聞いた話ですが、その方はエスカレーターに乗っているときに、右から男性に話しかけられて、嬉しくて対応していたら、次の瞬間に左から別の男性に財布を取られたそうです。その二人の男性は窃盗の仲間だった、というわけですね。

またまたこれも日本に住んでいるラテンの女性に聞いた話ですが、帰国する時は、日本にいる時のような服装はしないのだそうです。やはり目立ってしまうので危険なのだそうです。そういう意味では、お洒落な服装にも注意した方がいいでしょう。私はペルーやポリビア、コロンビアに行った時は、着いてから現地で服を調達しました。現地の人たちと同じような服装をして同化した、というわけです(^^)



床に荷物を置くと...？

床に荷物を置くという行為、細かく言えば、電車の中でも思い荷物は下に置きますし、会社などの建物の中で誰かと会った時に、書類を渡す時に一瞬荷物を下に置く時もありますよね。少なくとも、そういう場面は頻繁に見かけますよね。授業やセミナーでも、机の上に置かず、床にカバンを置いておくなんてこともありますよね。

これは、ラテンの文化では、**ゴミと同じ扱い**になってしまうのです。だから、ラテンの人たちは自分の持ち物は絶対に床に起きません。日本人だとこれは意外と気付かないものです。今このように話している私も、スペイン語の師匠に言われるまでは気付きもしませんでした。

例えば、相手から何かプレゼントを貰ったとしましょう。日本人であれば、大きいものだったりした場合、一瞬床に置いたりすることもあります。これをやってしまうとどうなるか...？その場では怒られないと思いますが、自分が差し上げたものを床に置かれた、つまり、ゴミと同じ扱いにされた、と不快な思いをさせてしまうでしょう。

日本での生活が長い人なら文化の違いということで理解してくれますが、旅行者や日本に来日したばかりの人だと誤解を与えかねないので、ここは絶対に抑えておきたいですね。

日本とラテン諸国における文化の違い

そもそも、ラテンの人たちは家に上がる時に靴を脱ぐという習慣がありません。家の中でも、靴もしくはスリッパを履いています。この事実からも、床には荷物を置かないということが想像しやすいのではないのでしょうか。

また、これは少し意味合いが違いますが、畳というのは、日本文化を代表する物の一つです。が、ラテンの人たちは日本人のように畳に布団を敷いて寝るという習慣がありません。どこで寝るのか？といえば、ベッドの上なのです。

これも実際にあった話ですが、とある団体が日本に来日した時に、日本側の配慮で、仮眠できるようにということで畳の部屋を用意しましたが、誰一人として畳の部屋で仮眠しませんでした。これは決して悪気があるのではなく、まさに文化の違いだというわけです。



他人と一緒に風呂に入らない？

ラテンの人たちは、基本的にはシャワーで済ませます。日本人のようにお湯に浸かるという習慣はありません。日本には全国各地に温泉がありますが、人前で裸になる、ということ自体がラテンの人たちにとっては大きな驚きなのです。

ラテンの人たちは、まず他人と一緒に風呂には入りません。温泉施設でも同じです。それは、先述したように人前で裸になるという習慣がないからです。ホテルによっては大浴場がありますが、まず行かないでしょう。部屋のシャワーで十分なのです。

では、絶対に入らないのか、というとそうではなく、「水着を着て」なら入るのです。ただ、どうなのでしょう？日本の温泉施設では、水着を着ての入浴は基本的に許可されていないのでしょうか。



プレゼントへの考え方

もしあなたがラテンのお友達や知り合い、またはビジネス上のお付き合いのある方からプレゼントを貰ったら、どうされますか？勿論、受け取りますよね。ただ、ここで重要なのは、どんな品物であっても、**大袈裟に喜ぶ**、ということです。というか、大袈裟に喜んでちょうど良い感じになる、と言った方が良いでしょう。

たとえ頂いた品物があなたの好みのものでなかったとしても、決して態度に出してはいけません。あなたがアレルギーのある食べ物とかなら話は別ですが、突き返すなんて問題外です。大袈裟に喜んで心を込めてお礼を言ってください。そして、喜ぶ前に、受け取った物は**必ず開けて中身を確認**します。これも重要です。

日本人だと、受け取ったものを家に帰ってから開けたりすることもあります。これはラテンの人たちには絶対にやってはいけません。これをやってしまうと、「気に入らなかったのかな？」「嬉しくないのかな？」と気を使わせてしまいます。もらったらずその場で開けて中身を確認し、大袈裟に喜ぶ。これを外してはいけません。

プレゼントにばななかったり気に入らない素振りを見せたりすると、不快な思いをさせるだけでなく、「もう二度とあの人とは付き合わない！」と思われてしまうのです。

日本とラテン諸国における文化の違い

そういえば、こんなこともありました。と、ある南米の夫婦の方が、とある自治体との調印式に出席するために来日した時のことでした。そこで事件が起こってしまったのです。

自治体側は、自治体から南米側にということでプレゼントをお渡しされました。おそらく和菓子か何かだったのでしょう。これのどこが問題なんだ？とあなたは思われたかもしれません。私も最初は状況が読めませんでした。要は、自治体側は、「これ、皆さんでどうぞ」という気持ちを込めて渡したわけです。

すると、隣にいた南米側の奥様が、「私にはないの？」と言い出したのです。日本人からすると、「えっ？皆さんで、という意味なんですが...」という風になると思います。その場でも自治体側の方はそのように説明をされました。すると、南米側の奥様は、「いや、私の国では一人一人に渡すんだ」と言い出したのです。

これはまさしく文化の違いから起こってしまったことで、どちらが正しくてどちらが間違っているという話ではありませんが、その奥様は帰国されるまでの間ずっと、「私にはないの？」と言われていました。この時は、自治体側は苦笑いでした。改めて奥様に何かプレゼントされることはありませんでした。これはもう、自治体としての対応なので部外者が口出しできる話ではありませんが、「こんな所に盲点があるのか...」という出来事でした。

金銭感覚の違い

スペインは発展した国ですが、中南米はどちらかというと発展途上国であるという認識をあなたは持たれているかもしれません。その通りです。そして、日本以上に格差社会です。大体どこの国でも、階層ごとに住むエリアが分かれています。そして階層ごとに生活しているのです。例えば、チリで階層が1 - 5までであるとしましょう。1の人は1の人同士、2の人は2の人同士、という感じなので、大人になって1の人と5の人が出会って...というようなシンデレラストoryはまずありません。

5の階層の人がお手伝いとして1や2の階層の人を雇ったりすることは勿論ありますが、そういう主従関係を除けば、それぞれの階層でそれぞれの世界で生きているのです。例えば、子供の頃は裕福ではなかったけど、勉強して良い会社に入って...というサクセスストーリーも殆どありません。あるとすれば、スポーツや音楽などの芸術でのし上がるくらいでしょう。

そんな格差社会で暮らしているわけですが、彼等の手取りのお給料は、日本の1/3か1/4程、でしょうか。完全な格差社会なので、日本に旅行に来るような人たちは、ある程度裕福な方達なのでしょう。

ですが、そうではない人たち、つまり、言い方はなんですが、下の階層の人たちからすると、やはり日本で売っている商品というのは、すごく高いわけです。

日本とラテン諸国における文化の違い

お給料が日本の 1/3 か 1/4 なので、その感覚で日本に来るわけなので、それも当然のことです。

以前、車椅子の方が日本に来られましたが、運悪く滞在中に車椅子のタイヤがパンクしてしまいました。最初は応急処置として手動式の空気入れで空気を入れてしのいでいましたが、やはり、左右のバランスが悪いので車椅子の修理の対応をしている業者に来てもらうことになりました。

そして、その時に事件が起こってしまったのです。事件と言っても、日本との物価の違いによるトラブルでしたが...タイヤの中のチューブが完全にダメだったので左右のチューブを交換した訳ですが、確か、5千円か6千円でしたでしょうか。その値段を聞いて、ゴネだした訳です(笑)

「6千円もあったら、僕の国ではタイヤ4本は買えるよ!」と主張し、高いと言い出したのです。挙げ句の果てに、「僕の国ではその値段だとタイヤを4本は買えるから、チューブ交換で6千円は払えない」と言い出したのです。1時間ほど散々揉めた末に、業者さんが割り引いてくださったお陰で解決しましたが、事前に金額を確認してからにするべきだったと痛感した出来事でした。

仮にもし、6千円払ってもらっていたとしましょう。おそらく、「僕は別にチューブ交換なんてしなくても良かったのに、無理やり修理されて6千円も払わされたんだ」と言われていたでしょう...納得できないことに対しては絶対に引き下がらない、渋々諦める日本人とは違うということですね。

マスクに対する感覚

日本人には昔からマスクをする習慣があり、コロナウイルスの拡大を抑えられた要因の一つだとも言われています。元々日本人は、花粉症の人や風邪気味の人にはマスクをする習慣がある訳ですが、これがラテンの人たちからすると不思議で仕方がないのです。

ラテンの人たちからすると、マスクをしている=重病の人、というイメージがあるからなのです。私も花粉症が酷いので春はマスクが欠かせないのですが、コロンビアから日本に来ていた人たちに不思議がられました。電車に乗った時も、たくさんの乗客がマスクをしていたので驚いた様子でした。

ラテンの人たちからすると、マスクをするくらい重病なら家に居るだろう、という感覚なわけですね。



声の大きさの違い

ラテンの人たちに対してだけでなく、外国人の人に対して「声がデカイ！」と感じたことはありませんか？日本人は声が小さいと言われていています。それにはいくつか理由が考えられます。日本人は電車やバスの中ではあまり話さないですよね。話したとしても小さな声で周りに迷惑にならないように話しますよね。携帯電話で話す人も殆どいないですよね。このことにも驚く外国人は多いです。

あと考えられる理由としては、日本語そのものの特徴が考えられます。日本語はあまり大きく口を開けなくても話せますし、リズムの変化の少ない言語です。

しかし一番の大きな理由は、住んでいる**環境の違い**ではないでしょうか。日本に比べ、ラテンの国は騒音がもっと大きいのです。特に車の音は大きく、場所によってはクラクションの音が響き渡っている所もあるくらいです。そんな騒々しい場所で暮らしているので、自然と声も大きくなる、というわけです。大きな声で話さないと、相手に聞こえないのですね。いかに日本が静かな場所か、ということがよく分かるエピソードではないかと思います。

お酒を飲む時の違いについて

お酒を飲む時、みんなで乾杯をして飲みますよね。それは、日本でも海外でも同じです。ただ、日本と海外では決定的に違う習慣があるのです。それはなんだと思いますか？

海外の人は「相手のコップに注ぐ」習慣がないのです。飲み物によりますが、日本人は、瓶ビールや日本酒であれば、誰かに注いでもらいますよね。自分で注ごうとしている人に気づくと、周りの人が気を使って注いであげますよね。

これは日本独特の文化と言えるでしょう。私も以前、アイリッシュパブに飲みに来ていたコロンビア人、メキシコ人、ペルー人のグループが日本酒を頼んでいて、自分で注ごうとしていたので、「日本では…」ということで見本を見せてあげると、とても珍しがっていました。

余談になりますが、このグループの人たちが入って来た時にスペイン語で話し掛けたのですが、おそらく日本で日本人にスペイン語で話し掛けられるとは思っていなかったのでしょう。嬉しかったようで、乾杯する時に私のことも混ぜてくれました。すぐに終電の時間が迫っていたので短い時間しか話せませんでした。今となっては良い思い出です。

日本とラテン諸国における文化の違い

また、ラテンの人たちは、別にお酒を飲みたくなければ、周りに合わせて飲むこともないのです。水がよければ水ですし、ジュースがよければジュースなのです。

日本だと、飲まない人、または飲めない人でも最初の乾杯の時はお酒で乾杯するのが普通で、そこでお酒ではなく水やジュースだと周りの雰囲気が冷めてしまったり、上司の方が気分を悪くされることがありますが、ラテンの人たちはそんなことはありません。そんなことをしたら、反対にパワハラで訴えられてしまうかも知れません。

自分が飲みたいものを飲む、それで大丈夫なのです。日本人のように、グラスが空いている人に気を使って「次は何を飲みますか？」なんて聞く必要もないのです。それをしないからと言って、「気が利かない人」なんて言われたりしませんから、ある意味、楽で良いかも知れません。勿論、聞いてあげても全く問題ありません。それはそれで親切ですから(^ ^)



おわりに

以上、日本とラテン諸国の文化の違いについて書かせて頂きましたが、最後まで読んで頂きまして誠にありがとうございました。既に知っていたこともあれば、新しい発見や面白い違い、不思議な違いがあったのではないのでしょうか？

ここ日本では日本文化を全面に押し出しても良いと思いますが、ラテンの人たちとビジネス上の付き合いがある、また今後そういう付き合いが必要になる、という人はこういう文化の違いを知っておくことも必要ではないかと思います。

ここに書いたことが少しでも、読んでくださったあなたの役に立つのなら、とても嬉しく思います。

最後になりますが、ここまで読んでくださったあなたへのメッセージを動画に撮らせて頂きました。プレゼントもご用意しておりますので、是非、以下のリンクをクリックし、お聞きになって下さい。

メッセージを聴き、プレゼントを受け取る



https://youtu.be/3A986aEL1_4

日本とラテン諸国における文化の違い

フォームに登録し、プレゼントを受け取る



<https://spanish-coach.com/fx/KB8eBk>